

## 第2回琴浦町小学校適正規模・配置審議会 会議概要

日時 平成20年5月14日午後1時30分～午後5時10分

場所 町内各小学校

まなびタウンとうはく 4階 研修室

### 1 学校視察

浦安小→東伯小→古布庄小→以西小→成美小→安田小→赤碕小→八橋小

### 2 学校視察を終えての意見交換

#### (1) 学校視察の感想

- どの学校もいい所に建っている、子供の数は少なくなっているが、少ないところでも、40名、70名と決して少ない数ではない、地域になくなるのは寂しい、たとえば、選択できるようにすればそれもいいではないかと思った。数の論理でなく各小学校が特色のある学校であれば、そこに行きたいという人も出てくるのではないか。
- どの学校もまだ新しく、地域の拠点となっていると感じられた。
- 学校の老朽化もまだまだで、もったいないという感じを受けた。先ほどの、特色のある学校づくりは、そのとおりであると思うが、現場はその方向(選択制)で迫られれば、児童勧誘の競争になる恐れがある。
- 少ない児童をお互いが取り合うことになりかねないか。確かに特色を出すのは大事である。学校との通学距離の関係で、校区の再編も考えなければならぬ。
- 地域にとって、学校が大事なものと感じた。学校を中心に地域がまとまっており、子供たちにとってどういう教育環境が効果をあげるのか考えていきたい。これから子供の数がどんどん減っていく中で、どの位が適正か考えていきたい。アンケートの中で、小規模校は「一人ひとり」、大規模校は「ダイナミック」という言葉が多く出てくる。それぞれの良さがあるが、子供にとって何がベストなのか考えていきたい。
- 第1回の審議会で示されたように統合ありきの議論でなく、琴浦町の子供たちをどう育てていくのか、活力ある小学校教育の在り方はどうなのか、それを踏まえて検討し、そのためにはどうしたらいいかということを、まとめたい。

#### (2) 地域とのかかわり

- どの学校もいい環境の中にある、財政的な面もあるが学校教育の中で大事なことは、子供は学校の中だけで育つだけでなく、その地域・家庭・人

間・自然環境の中で育っていくと考えた場合、学校の規模・予算だけを考  
えてやれば、審議が非常に難しいと感じた。

- 確かに、地域とのかかわりの中で学校が運営されてきている。
- 各学校とも地域に根ざした学校であると感じた。また、通学距離、登下  
校の安全面を考えるとスクールバスでの送迎も学童保育とセットで必要で  
ないかと感じた。
- 学校の規模で色々いいところ、困るところがあると思うが、人数の少な  
いところはそれのプラス面を生かすように取り組んでいる。人数の多い所  
は人とのかかわりを生かす取り組み、8校あれば、町内だけで色々交流がで  
き、良さを感じている。個人的には歩いて通学できるような距離が、地域  
の教育力の面からもいいと思っている。
- 現在、学校はそれぞれの地域の中心地に配置されている。また施設も整  
った学校ばかりである。しかし、なぜ今適正規模・配置の議論をしなければ  
ならないのかを、皆さんと同じ土俵で考えながらやっていきたい。
- この審議会は、統合ありきでなく琴浦町の子供をどう育てるかが、最初  
にあって、その結果適正な規模・配置をどうしたらいいかを審議していき  
たい、そのためにも色々な話を出し合いながら、現状はどうか、将来はど  
うあるべきかを考えながら進めたい。

### (3)その他

- 子供たちを各学校で交流させ、その状況を見て見極めることも大事では  
ないか。
- 各小学校、中学校との交流の実態を聞かせてほしい。
- 全町単位では陸上大会、水泳大会等、校区単位では宿泊訓練、修学旅行  
等、各学校間でもそれぞれ学年ごとの交流を行っている。
- 中学校とは一日体験入学で交流を行っている。
- 陸上大会で各小学校規模が違うが、種目等の工夫は。
- 団体種目はどこも参加できるよう、弾力的に運営している。
- 大会なので、学校対抗という面もあるが、交流も考えて行われている。
- 中学でも、子供の数が減り、人数の足りない部が出てくる。その場合は  
他の学校と合同での大会出場が認められるようになってきた。これは少人  
数の学校でも色々な運動をしたいという子供の欲求がある、そういうもの  
に答えていこうという方向性の中で出てきた。体制を整えば、小規模校で  
も子供たちの要求に応えられるようになって来ている。
- 小学校ではスポ少など連合チームで参加している。
- 子供が喜び、誇りを持てる、自分を取り戻せる居場所でなくてはならな

い、それが本来学校のあるべき姿でないかと思う。色々な特性の子供もいると思うが、その支援の体制はどうか。

- 特別支援教育については、LD 等専門員を配置したり、専門機関の先生を中心に、各学校で、保護者も一緒になって取り組んでいる。また特別支援・30 人学級・複式学級解消として 10 人の講師を町独自で配置し、よりきめこまやかな指導に努めている。
- 最近の小学校の卒業生に、小学校時代のことについて、アンケートを取ってみてはどうか。
- アンケートは対象、集約、評価等が困難である。皆さんの周囲の方々に聞ける(子供・卒業生・大人)範囲で、意見を聞き、この場に持ち寄ってはどうか。
- 個人的には、小学校入学前の保護者の意見を聞くような会を開きたい。
- 保育所の保護者から、自分で学校を選択できたという意見を聞いた。
- その場合、なぜそこがいいのかを聞いてみる必要がある、そのことが教育の在り方にもつながると思います。

### 3 今後の会の持ち方とその内容について

- 最初から統合ありきでなく、琴浦町の子供たちをどう育てていくか、活力ある小学校教育の在り方を、学校運営・学習活動・発達課題・施設整備・教員組織・PTA 活動や学校間連携の視点で議論してはと思っています。こういう考え方で、進んでいってよいか。
- 現在児童数で見ると、43名から260名の学校がある。児童数の少ないところの意見が聞いてみたい。
- 今はまだ数がどうかという議論でなく、もちろん数は大きな要素であるが、まず活力ある教育の在り方を議論していただきたい。
- 現在の人数だけで判断するのではなく校区の再編も視野に議論してほしい。
- 「二十四の瞳」はいい教育だと思うが、果たしてそれが今の時代背景に照らしていいことなのか。やはりある程度の集団の中で育っていかないと、いけないのではないかと思っている。
- 今はこれからの審議会あり方についての話ですので、先ほど示しました視点で研究論議を重ね、適正な規模の在り方、配置、そのための条件等も踏まえて進めていきたい。次回は学校の規模について、学校状況について議論したい。
- 次回日程は7月9日午後7時から開催したい。

### 4 閉会